



あわしま だるま がま 粟島達磨窯～市民がはぐくむ文化財～

瀬戸内海に浮かぶ、スクリューの形をした詫間町粟島。近世より廻船業が盛んで、多くの船の操縦士を育てた粟島海員学校の建物(現在の粟島海洋記念館)は国の登録有形文化財となっています。

この島で海運を活かした産業として行われたのが瓦づくりで、棧瓦を中心に生産され、耐寒性に優れた粟島の瓦は、遠くは東北地方まで出荷されました。

かつて島には20軒以上の瓦屋が軒を連ねましたが、戦時中の燃料不足やセメント瓦の普及により急速に衰退し、瓦を焼いた窯もほとんどが姿を消しました。その中で現在も原型を留めているのが、西浜地区に残る、操業者の名を取って通称「東風源治窯」と呼ばれる市指定有形文化財『粟島達磨窯』です。

粘土やレンガで造られており、中央に焼成室を設け、その両端に焚口たきぐちが取り付け、ダルマが座っているように見えることからその名がつけました。明治時代から昭和中期まで操業された窯で、戦前の構築が確認もしくは推定される窯はこの他には中部地方に2基が知られるのみ、西日本で現存する唯一の事例となっています。

浜風を受ける立地から傷みやすいため、年1回文化財保護協会詫間支部会員を中心に修復作業を行い、同時に皿や小物などの粘土作品を焼いています。火入れを行った際の窓から噴き出す炎は、夜には幻想的な雰囲気をかもし出します。市民の活動によって守られ、育まれる文化財。文化財を守るだけでなくどう活用するか、この活動はまさにその好例と言えるでしょう。

<生涯学習課>

今月の市民力

総勢600人。9月5日に行われた「みの防災フェスタ」に参加した人たちの数です。一地域としてはすごい人数だと思いませんか。三野地区社会福祉協議会と三野町公民館が中心となって組織する実行委員会が主催して行われたものです。防災意識の高揚を図ろうと昨年からはじめ、今年も消防署や自衛隊などの協力を得て訓練が行われました。気温35度もあろうかと思われる中で非常食試食コーナーでも汗だくになりながらの裏方仕事。大勢のボランティアの力(市民力)が地域を動かしているのです。

